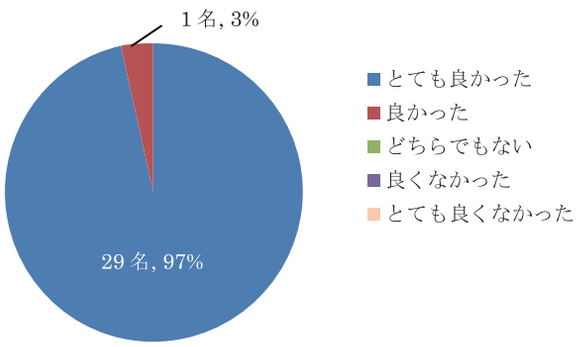
旭川校「平成20年度 へき地・小規模校体験実習を終えて～アンケート」

実 施 者：へき地教育スーパーバイザー　幸村敏晴，旭川校教育実習委員会
実施形式：「へき地校体験実習」終了後，各自で回答し，提出。
実施期間：平成20年９月～10月
対 象 者：30名
回 答 者：30名（回答率100%）

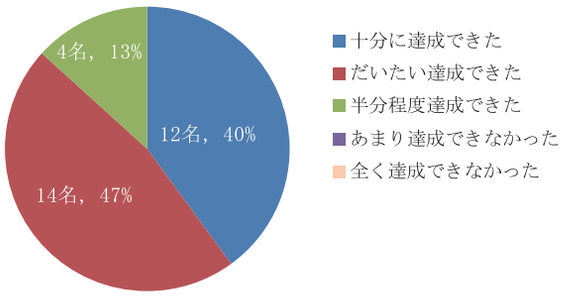
(1) 実習に参加してよかったか（５段階評価）



〈コメント〉

・実際の現場を観ることで，自分自身の意欲も高まりよい刺激になった。／現場を観ることができ，複式の厳しさ，よさを体感できた。／現場の様子を見ることで，講義で大切だと言われていたことに実感が持てた。／現場を見ることができ，複式の厳しさ，よさを体感出来た。／このまま実習していたいと思えるくらい最後の別れがつらかった。
・本実習の前に，自分の未熟さに気づけたのが非常に大きかった。／自分の足りない面を多く知ることができた。
・子ども達とたくさん触れ合う中で，ふだん気づかされない優しい感情など持てるようになった。／生徒の優しさや先生の親切さ，地域の人たちの温かさ／人の温かさにも触れることができた。
・「教育の原点」と呼ばれる理由もわかったような気がする。／へき地での教育の魅力を改めて感じることができ，参加して本当によかった。
・児童とコミュニケーションをとり実際に授業をさせてもらったことは大きな自信になった。／子どもがとても純粋で遊ぶのも楽しくいろいろ学べた。本実習を前に先生とはどういった立場になるのかを確認することができた。／地域における教師の在り方などの講義もいろいろ勉強になった。
・教師になりたいと心から思えるようになる。／教師になりたいという気持ちが少し薄れかけていた私だが，子どもと触れ合うことの楽しさ，授業などを通して子どもに物事を伝える難しさや楽しさを知り，先生という職業に魅力を感じた。

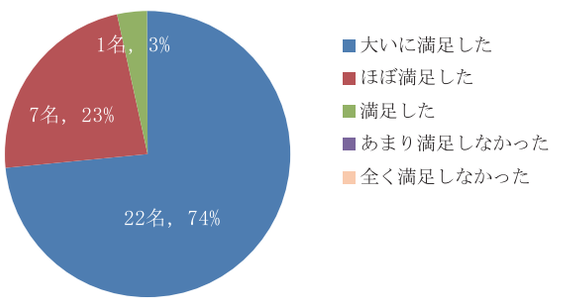
(2) 実習テーマの達成度について（５段階評価）



〈コメント〉

・地域の特性やメリット・デメリットをよく知ることができた。／へき地の特性などについて，実感を伴った解釈ができた。／児童と教師，児童同士のつながりやへき地校独特の授業スタイルについて学び，実際に体験することができ達成度はかなりよい。／後半疲れからややだれてしまったが全体的には十分達成できた。
・生徒達とのコミュニケーションについては達成できたが，へき地校の特性についてはもう少し時間がほしかった。／大規模校との違いは本実習で学べることを期待。／もっと時間をかけて学びたいこともあった。
・「積極性」という面での目標は達成できたとは言い難い。／もう少し学ぶ姿勢を持つとよかった。
・実習目標はあまり達成できたとは言い難いが，今後の課題を見つけることができた。

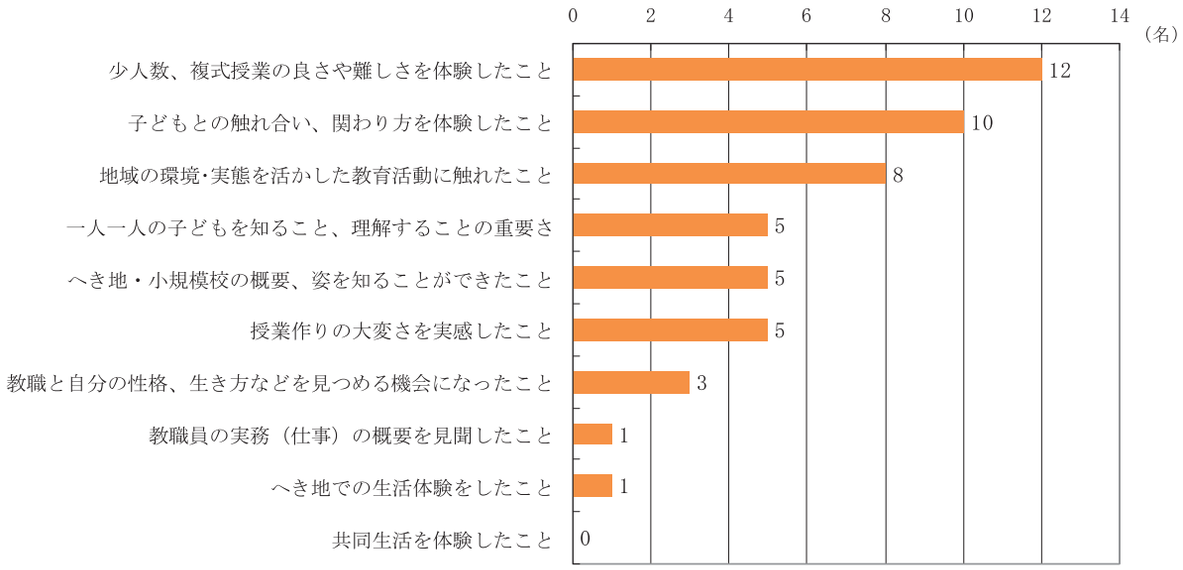
(3) 実習の満足度は（５段階評価）



〈コメント〉

・学校，子ども，先生，地域，すべてが温かかった。／自ら積極的に子ども達とかかわることができ，本当に満足できた。すべてが温かかった。
・初めて授業ができた。／思いがけず授業も行ったので，予想以上だった。／もっと授業をしてみたかったと思うが，そうなると正直言って手が回らなくなったと思う。／授業は思い通りには行かなかったけど，それ以外は満足のいく内容だった。／授業が心残りです。もっと勉強しておけばよかったと後悔してます。
・実習中の生活はふだんの生活とは大きく違い，その苦労もとても有意義なものでした。
・何より子ども達と触れ合いがたくさんあることで普段大学で学んでいることよりリアルな姿を知ることができた。
・様々なことを学べ，自分を見つめ直すことができたのでとても満足です。／現在の自分の力を知ることができたり，新たな課題を見つけることができたりと学びの多い実習となりました。
・ただ楽しかっただけでなく，様々なことを思い考えた一週間でした。とても充実していました。
・学校側との連携がうまくいかないこと（事前連絡や情報の共有など）もあり，少し後悔も残った。
・一週間という短い期間で祝日があったり，中間テストがあったり，行事で半日授業がなかったりと日程の取り方をもう少し考えてもらえたらと思いました。

(4) 実習においてもっとも大きな成果・学んだこと・感じたこと・考えさせられたこと（二つ選択）



(5) 印象に残った教師の言葉

「地域に顔の見える教師になって下さい」
「専門を大事にしながらも，広く浅く＝様々なことにチャレンジして子ども達にいろんなことを教えられるように」
「ここの学校の子どもはみんなよい子だ」
「子ども達の小さな様子の変化を見逃さない」
「へき地は教育の原点」
「ずっと悩んで勉強し続けること」
「君たちから学ぶこともたくさんありました」
「児童がうまく行動できない」＝「教師の指導が適切でない」，「児童自身に本当の意味での考える力をつけること」
「子どもにアドバイスするときは目線の高さに合わせた方がよい」
「実習生を見てて初心を思い出しました」「あなた達を見習わなくてはなりません」
「子どもは望めば必ず変わってくる」
「学校は比べてはいけない。その実態に適した指導，運営が大切です」
「中・大規模校では無視されてしまうグレーゾーンの子どもも，ここではそうはいかない。面と向かう子どもの数が少ないからこそ見逃せないこともある」

(6) 実習中，特に指導を受けたことは何か

・児童一人一人の実態を把握し，適切な個別指導を行うように心がけること／教師と児童の関係がより密接になるが，教師と児童と言う立場はきちんと理解させることが重要であること／難しいことだけど，児童を甘やかさないこと／常に子どもと遊びなさい，話しかけなさい。子どもを知ること，子どもとの関係を作ること／子どもとのかかわり方について～優しさと厳しさ，叱ることと誉めることなど／一人一人をしっかり見つめ，その子らしさを生かすこと／子どもには，簡潔・端的に，順序を考えて，多くのことを要求しない，子どもに分かる言葉で
・社会人として勤務するのに適切な服装，教員としてのふさわしい言葉遣いをすること（児童生徒だけでなく，保護者，地域の方々，出入りの業者など，常に行動は注目される／地域の方々やお世話になる関係機関に感謝の気持ちを持つこと，挨拶をしっかりと／期日，時間を守ること／学校情報，個人情報の漏洩に関すること
・常に意識を高く持つこと。積極的にチャレンジする気持ちを持ち続けること／謙虚な態度と積極姿勢を／諸活動の準備作業には積極的に参加すること～協働

・実習手帳の記入の仕方について～事実記入と感想や意見の区別／板書，実習手帳などの文字～丁寧に～読んでもらうという意識を持つこと
・授業づくりについてのアドバイス（授業の流れ，板書，ワークシートづくり，時間配分など
・実習生便りについてその対象（児童生徒か保護者か）を押さえることと言葉の使い方を吟味すること
・健康管理が大事。心身ともに

⑺　事前指導で力を入れて指導しておいたらいいと思ったこと

・学校からの資料をしっかり目を通しておくこと／実習校の実習計画を基にした指導を～生活面も含めて／実習協力校と連絡を密にして事前に何をしておけばいいかが分かるように／服装について～協力校の基本的な考え方を知っておく
・言葉遣いと挨拶や礼儀～頭で理解していても，とっさに，日常的にできない
・前年度実習生の体験談を聞く機会を設定すること／実習に行った先輩の実習報告集は絶対読んでおく
・授業を参観するときの視点について～少し詳しく／複式の指導案の作成の仕方／指導案の作成と授業をする上での基本的なこと／指導案の作り方，模擬授業もできればして欲しい／学習指導要領を持つこと～実習に不可欠
・お別れ会での取組みの事～現地では考える時間があまりない／子ども達へのプレゼント・お礼など～文具，用紙などの準備
・食事など生活に関する計画／一緒行くメンバーとの連携～生活面の計画，通信やお別れ会の準備など／自炊生活や洗濯はかなりきつく感じる～食事は簡単なもの，服は多めに／朝早く起きる習慣をつけておく。時間に余裕を持って行動する習慣も
・やる気（モチベーション）を高めておく～自分の気持ちの持ち方一つで変わる

⑻　へき地教育論，へき地教育指導論を受講しておいてよかったこと

・へき地の一般的な特性やメリット，デメリット，子どもとの接し方など授業の折々で触れていたことが実際の場で起こったときに対応ができたこと／へき地の子どもの一般的な特性を知っていたので，とても助かった／へき地校の実情や学習指導について学ぶことで，実際の現場に来て自然と受け入れることができた／へき地校の特性や複式学級，複式授業についての事前知識があったので，初めてみた状況にスムーズに参加，対応ができた／へき地教育についての基礎的な用語，イメージを学ぶことができた，心構えができたこと
・へき地･小規模･複式校の授業や学級経営の基本を理解したうえで実習に行けたこと／ずらしやわたりなど授業を見る際の着目点になったこと～教師の動き／指導論で実際に指導案を下に学習するので，具体的に理解することができた／授業に観察参加する際に，どのような点を見ればいいのか事前に考えるための基礎知識となった／特にわたり，ずらしの難しさを事前に知ることができた。DVD の視聴がとても参考になった

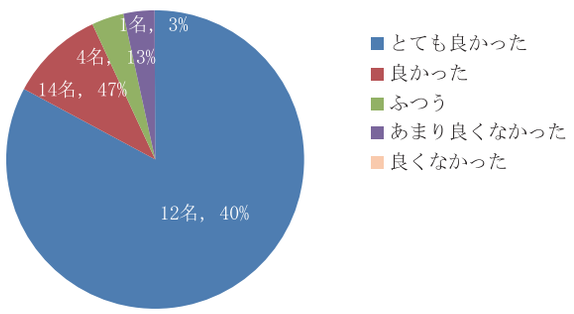
⑼　実習に要した経費（概算）

10,000円	～	15,000円	15名
15,000円	～	20,000円	6名
5,000円	～	10,000円	4名
25,000円以上			4名
20,000円	～	25,000円	1名

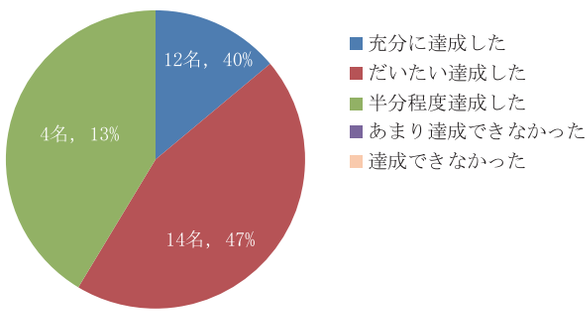
釧路校「平成20年度　へき地教育実習　事後アンケート」

実 施 者：釧路校へき地教育実習プロジェクト委員会
実施形式：事後指導時に配付，回答。
実施期間：平成20年10月～21年１月
対 象 者：35名
回 答 者：29名（回答率83%）

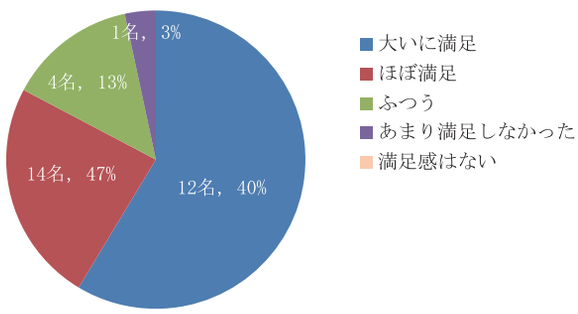
(1)　実習に参加してよかったか（５段階評価）



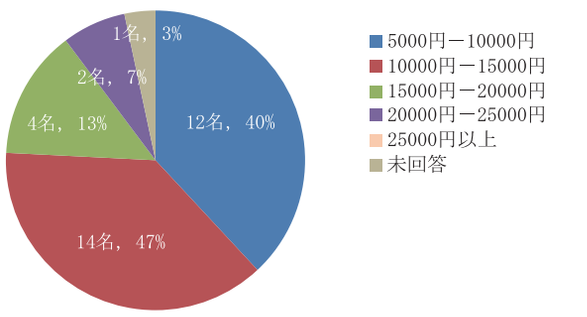
(2)　実習テーマの達成度について（５段階評価）



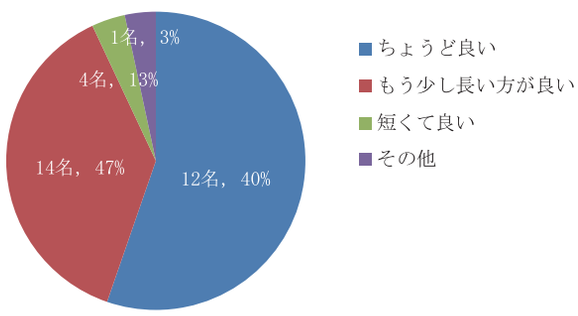
(3)　実習の満足度について（５段階評価）



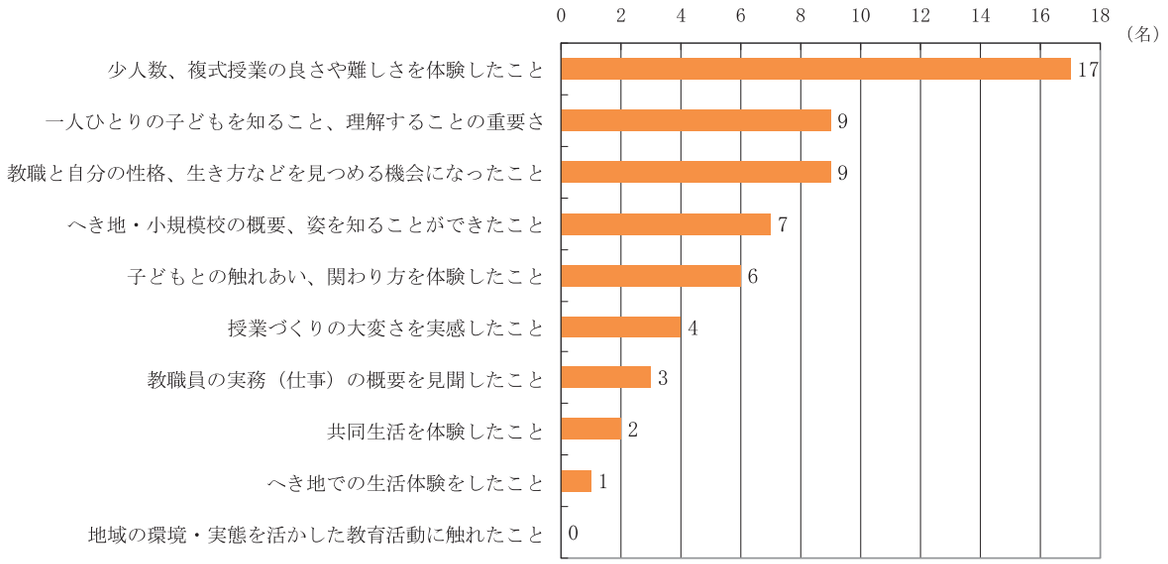
(4)　実習に要した経費（光熱費・住宅費を除く，食費・交通費などの滞在費用の概算）



(5)　実習期間について



(6) 実習においてもっとも大きな成果・学んだこと・感じたこと・考えさせられたこと（二つ選択）



(7) 事前指導で力を入れて指導しておいたらいいと思ったこと（自由記述）

・その実習校のある地域の状況を学んでおくことで，地域性を含めて学校を見ることができる。
・指導案づくりは一人一つ作成するよう課題を出すこと。
・テーマ･課題･視点をもって取り組ませる。
・実習までに自分の目標･テーマを明確にしておくこと。実習校との事前指導で確認しておくべきことの提示。
・複式の難しさがわかったのは良かった。ネガティブな面は言いすぎてもよくないが，言われていた方が覚悟できると思います。
・実際にへき地校に努めている先生をお呼びして，複式の授業について指導していただく。学校ごとにスタイルが違うと思うので多くのやり方を知っておきたい。
・実感をもって準備することができたら良いと思うので，具体的な話などたくさん聞けたり考えられたりできれば良いと思います。あとは本人の行動次第なところが大きいので…。
・事前指導の中で複式指導案の書き方があったが，実習中とても役にたった。実習に入っていきなり指導案を書くことになっても，なかなか難しいので，事前に書いたことがあったり，他の人の指導案や模擬授業を見れていると少しイメージがふくらみやすくなるように思う。それと，実習経験者の体験談もよいと思う。
・へき地校での指導法。
・複式授業の組み立て方。
・複式授業をやるだけでなく，見たり，参加したりを含めてたくさん経験させてほしい。
・日常生活について。地域の特性について。
・模擬授業の時間数。
・大学支給のものを把握していなかったこと。
・複式授業のつくり方，やり方。へき地校の様子。事前に終了後の報告会があるとか，レポートの提出があるとかの連絡など，全体の見通し説明。
・確実な引継ぎ。実習校別の詳しいガイダンス。
・実習校別に，前年行った先輩とのガイダンス。
・複式授業の実践ができたら良いと思った。
・その学校に行くのが『初めて』という人もいるし，へき地実習の様子がわからなすぎるので，学校ごとに前年度行った人と今年度行く人の交流会があればいいと思う。話を先輩から聞くだけでも違うと思う。講義で“ここはこうだから…”みたいな事をされるよりも，よっぽどためになる。

・担当の先生からの話だけでなく，実際に昨年度同じ学校で実習した先輩の話を聞くことができたら，毎年の反省がきちんと次年度に活かせるし，行く学生もイメージが持ちやすいと思う。また，最終レポートの10枚があることを事前に知らせておいてもらえると，写真などを多く取ることができた。
・前年度の先輩からの感想や提言をもっと聞きたかった。より具体的なイメージが欲しい。
・つかむ，ひろげる，とりくむ，まとめるなどの指導案の構成について。
・実際に場面指導をもっと考えてしてみたかったです。

⑻ 実習中，特に指導を受けたことは何か

・子どもの関わり方では，自分の１日の関わりを含めた反省とその子の様子について。授業づくりでは大造じいさんとがんの授業を作る上で，指導を受けた。
・時間配分，ワークシートを用いた授業など，授業の作り方。子どもとのかかわり。
・子どもの表情や反応を見取ること。小規模校ならではの指導。
・児童らをよく見て，実態を把握すること。
・報告･連絡･相談の大切さ，重要さ。
・内容などやること，教えたい内容をしぼること。時間で動くこと。課題や，やることを明確にしてから「わたる」こと。
・授業の進め方や自分の課題について。板書や教材について。
・児童との接し方。自分が楽しくないと子どもも楽しいと感じないこと。
・わたり･ずらしについて。複式の授業の仕方について学ぶことが目標だったので，様々なパターンでの教師のわたりについて特に指導していただいた。
・とにかく，子どもの実態を見て子どもに合わせた指導や支援をしていく，時と場合によっても子どもの様子に変化があるので，同じようなことをしても原因が違うことがあるので，しっかりと子どもの言動の背景を知ることが大切。
・実習をするにあたって，しっかり視点を持って取り組むこと。間接指導･複式授業の難しさ，奥深さ。学級内の異学年においてどのように評価していくのかの基準について。
・指導法，板書などの授業づくり。行事について。
・教材研究とはどういうことなのか。
・自分のやりたいようにやってみる事。
・地域との大きな関係性，地域なくしてへき地の学校はない。
・子どもとの関わりを大切にすること。
・教材の奥深さ，おもしろさ。
・部活動も授業と同じであるということ。安易に子どもとの交流の場などととらえること。そのような意図をしていなくても，結果的にはそういうような気持ちで接することと変わりない。
・時間配分など，授業の見通しがもう少しできているといい。言葉づかいがたまに悪くなるから丁寧に。
・子どもたちとの関わりや見とりなど。
・元気を出すように。
・声や，目線など授業中の教師の動き。
・１日１日，１時間１時間，目的をもって過ごすように。
・子どもたちと，とにかく遊んだり，関わること。
・指示の具体性について。
・授業中の子供の思考を考えて，いろいろな工夫を行っていかなければならないこと。

⑼ 後輩たちへの提言

・やるもやらないも同じ実習なので，何をしに来ているのかを考えれば自分のやることが見えてくると思います。失敗することをおそれず，自分が成長できるよう全力で取り組んでください。

・何か１つ目標を持って実習に行くといいと思います。あとは楽しく子どもたちと遊ぶことです。
・時期が遅くなるにつれて寒さも増すので防寒対策はしっかりと行う。指導案づくりなど困ったときは，先生に相談。
・本実習とは違う学びや，本実習をやったからこその学びがある。そこから自身を成長させる課題を見つけていくことが大切。
・主免実習とはまたちがうことを，学ぶことができると思います。ぜひ積極的に参加して下さい。
・２週間でへき地校が体験できるのだから行った方がいいと思う。
・実習期間は２週間しかないので，自分から子どもの中に入っていかないと，あっという間に最終日になってしまいます。人なつっこい子どもが多いので，そこまで心配することではありませんが，積極性は大事です。また，子どもの顔と名前を覚えて実習に入って下さい。
・積極的に何事も経験したり，働きかけた方が良いと思う。時間はあるようでないので，考えて計画したら良い。食べるものや生活面で，へき地で手に入りにくいものは把握していた方が良い。
最後のプレゼントや，出し物は事前に前々から考えておく。
・２週間はあっという間なので，しっかり目標を持ち，それについて充分学ぶこと!!　このへき地実習はかなり力になるので，やった方がいい!!
・実習に行く前に，いかに課題ややるべきことを見つけて準備しておくかが，大切。実習中も常に課題を見つける，とにかく取り組む，やってみるということ，その姿勢が必要なのかと思います。実習に限ったことではないけれど，目標をしっかり決めて，深く見ることが，自分にとっても学べることができる近道だと感じます。
・へき地実習を経験して，より教育への視野を広げてほしい。また，児童一人ひとり向き合うことの大切さ，一人ひとりを時間をかけて見取れることの素晴らしさを改めて実感してほしい。
・２週間子どもたちと共に学んでほしい。
・しっかりした準備をして望むべき。
・たくさんやってたくさん失敗してください。
・楽しむこと全てが学びである。
・子どもとの関わり，地域や先生方との関わりを大切にする。いろんな先生方の授業を観察する。
・積極的に取り組んで，課題意識をしっかり持って取り組んでほしい。
・やらないよりもやったほうがいい。何か一つでもいいので，やってみたい！と思うことをもって臨むこと。どのようにすれば，自分の理想に近づけるか？　試行錯誤してほしいです。担当教諭の先生とは何でも話せるようにしていろいろ学んで下さい。あと共同生活は意外とストレスがたまる。自分なりのリフレッシュ法を!!　大学からの支給品は事前に確認をして！
・自分からやりたい！という気持ちを持って挑めば，本当にたくさんの経験ができます。主免実習やフィールドとは違う貴重な体験ができるので，この機会を大切にしてほしい。
・詳細かつ確かな引継ぎを行いたい。
全体でそういう時間が確保できないようであれば，学校別にでもかまわないので必ず行いたいと思う。
・子どもとの関わり，学校での生活を大切にするために，食事･睡眠をしっかりとること。そのためにも，生活を学校の先生方と理解を深める。
・２週間はあっという間なので，初めからとばしぎみな位，たくさん子どもたちや先生と関わる!!
・生活や学校を含めて伝えたいことはたくさんある。１日１日を大切にする。
・テーマ，目標を明確にすることで，日誌や最終レポートをしっかり書ける。
・将来，へき地教育にたずさわる，たずさわらないに関わらず，教員になるならば，絶対にいい経験になると思う。また，共同生活も人として，また一つ成長できるよい場面になると思う。せっかくの機会だから，積極的に参加してほしい!!
・テレビは持っていかない方が，時間を有効に使えたり，いろいろな情報を子どもたちが教えてくれる。
・へき地校では教育･生活など「計画」がいかに大切かということを学ぶことができると思います。

⑽　実習を終えた感想

・子どもとの触れ合いを大切にしようと思い，実習してきました。地域の方々とのスポーツ大会があったり，差し入

れをしてくれたりと，とてもあたたかい触れ合いができ，良かったです。小さい地域･学校だからこその課題も見えてきました。人との触れ合いがこんなに楽しいと感じたことはなかったので，とても良い実習になったと思います。
・２週間終えてまず考えたことが，このまま実習が続いてほしいなということでした。それほど楽しかったし，充実していました。この経験は絶対に何かの役には立つと思います。
・実習を終え，非常に充実した２週間であった。特に，少人数であるからこそ子ども達とより関わることができ，多くのことを学ぶことができた。この経験を今後に活かせるようにしたい。
・本実習を終え，それでも尚足りない力を実感し，そこを補うよう努力することができた。子どもをよく見て，その実態を考えて授業を行わないと意味がない，ということは一番感じたことだった。
・２週間はとても短いです。でも，学べたこともたくさんあったので良かったと思います。
・最初は大学祭に日程が近かったためあまり行きたくなかったが，今では行ってよかったと感じています。今まで経験したことのないスタイル，人数，授業形態でとても勉強になりました。
・とても楽しかった２週間でした。指導教諭の先生からも，複式授業だけでなく，教師として学ぶことが多くあり，へき地教育以外の部分でもとても勉強になりました。参加できてよかったです。
・まず，へき地教育に触れることができ良かった。本実習と同じところ，違うところを実感し学ぶことが多かったです。また，学校教育や授業づくりにとてもポジティブなイメージを持つことができ，楽しみを覚えることができるようになったことが大きかったです。
・この実習を受けることができて本当によかった。複式の授業について知ることができたし，やってみないとわからないところがたくさんあったので力になった。先生方が親身になって話を聞いて下さったので，とてもすばらしく楽しい２週間となった。ありがとうございました。
・根本的なこと，基本的なことを一つ一つ積み重ねていくという大切さを改めて認識することができたと思います。自分は何をしなくてはいけなかったのか，これからどうするべきかというのをしっかり考えていけるようになれれば良いと思いました。
・へき地実習を終えて，教職に就きたいという気持ちがとても強くなった。実習をするきっかけ，環境を整えてくださった大学，温かく受け入れてくださった小学校に深く感謝している。
・人生の中の１つとしてとても心に残り，ためになるものだった。
・生活がとても大変だった。
・良い経験をさせてもらい，ありがとうございました。
・へき地実習に行ってほんとうに良かった。自分が教師になるかどうか，教師としての姿とかを考えるきっかけになった。
・とても充実した２週間でした。苦しいこともたくさんあったけど，この実習に参加して良かったと思う。自分を変えることができたし，また一歩前進することができました。今後学校生活を送ったり，実習に参加したりする中で，自分に足りないものを補っていきたい。
・とても良い経験になりました。今後考えていきたいこと，大切にしていきたいことを多く学ばせていただきました。ありがとうございました。
・ほとんど初対面だった人とも共同生活を送ることになり，普段から研究室で共同生活に慣れているつもりだったが，大変なところもあった。「少人数だから児童を把握しやすい」なんてとんでもない‼とても難しかったです。子どもの数は関係ないのですね。
・得るものが多い２週間でした。失敗や悩みもたくさんありましたが，それすらも貴重な体験でした。このような機会を提供してくれた大学と小学校には本当に感謝しています。
・本当に多くのことを学ぶことができた。特に改めて，様々な面において本質を追究していくことや認識をもとにしたものの見方の大切さを体感することができた。
・１校だがへき地校の実際を見ることができた。とても良い実習だった。
・とにかくとても楽しかったです。行ってよかった‼へき地の経験ができて良かった。へき地の先生になりたいです。
・自分が経験したことのないような学校生活を送ることができた。自分の視野が広がった。
・へき地の良い所も悪い所も見ることができた。
・本当にいい経験になりました。へき地，へき地じゃないにとらわれず，子どもと関わるということ，教育について，

より深く広い教育を考えられたと思います。ありがとうございました。

・すごくいい経験になった。実際に実習に行ったことで，初めてへき地の学校について分かった気がする。主免実習では附属小学校だったため，あまり授業ができなかったので，すごくへき地実習が勉強になった。

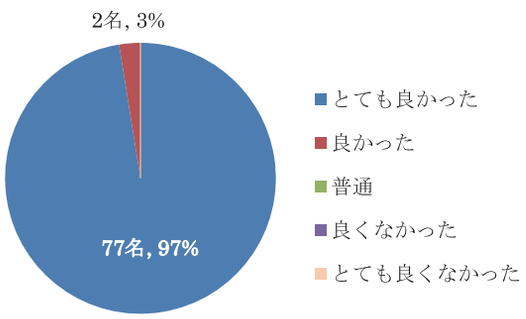
・２週間という短い期間でしたが，主免の５週間に負けないくらいの内容の濃いものでした。しかし，この素晴らしい体験に対して，この活動に対する認知度の低さ。このことこそ，今後改善していくことだと思いました。

平成21年度　へき地校体験実習　事後アンケート

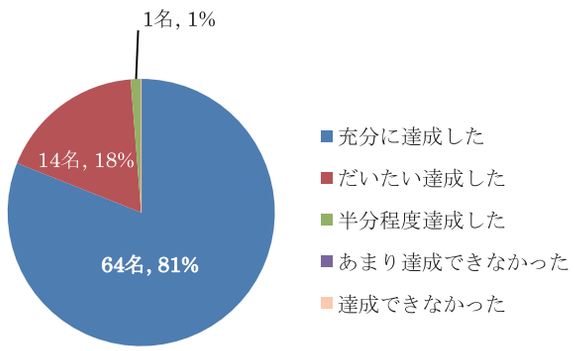
実 施 者：北海道教育大学　学校・地域教育研究支援センター　へき地教育研究支援部門
実施形式：直前指導もしくは実習手帳提出時に配布
実施期間：平成21年９月～11月
対 象 者：96名（札幌・旭川・釧路校　へき地校体験実習〔夏期〕履修生）
回 答 者：79名（回答率82.3%）

＊質問１～３については５段階評価

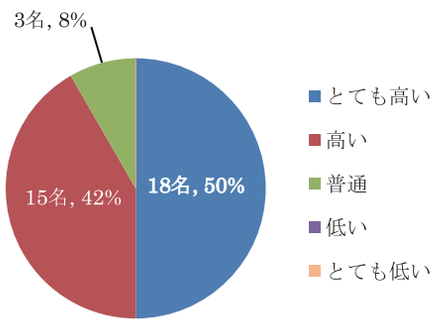
１．今回の実習に参加してよかったか



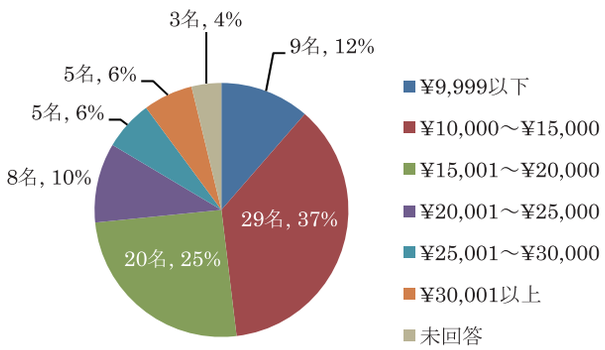
２．実習の満足度は



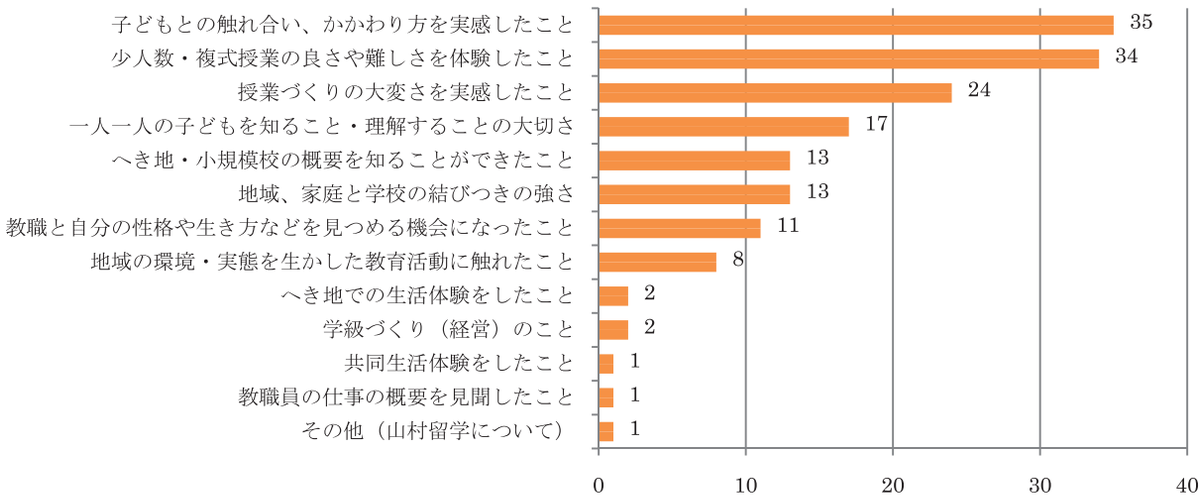
３．この実習で学びたかったことに対する達成度



４．実習経費



5．今回の実習においてもっとも大きな成果・学んだこと・感じたこと・考えさせられたことなど（１人２項目回答）



注）回答者のうち１名が未回答，１名が１項目のみ，数名が２項目以上の回答をしている。

6．実習を終えた感想

・授業を持たせていただき，また，子どもとたくさん遊べてとても楽しい実習だった。５日間だけでは物足りないくらい充実していた。
・複式授業を行うことができて大変ためになった。さまざまな反省点も得ることができた。授業に関しては悔しいが，次回に生かしたい。
・自然に囲まれ，地域・学校のかかわりが強く，地域で子供を育てるというのを実際に感じ取れたことが有意義だった。
・子どもたちがとてもかわいく，学ぶことがたくさんあった。
・知識として学ぶより，体験から学び取ることは大きいと思った。１週間では短いと思う。教師になったらへき地校に赴任したいと思えた実習だった。
・大変なこともたくさん感じた。へき地の子どもだろうと，都会の子どもだろうと，一人一人を見るのであれば，こんな傾向があるとかそういうのは関係がない。どんな所にも子どもはいると感じた。
・想像よりもずっとずっと有意義な時間を過ごすことができた。
・参加して良かった。自分に何が足りないのかを知ることができた。
・初めて教師として児童の前に立ち授業をしました。指導教官をはじめ，教職員の皆様，先輩たちのおかげで毎日が楽しく充実していた。
・本来履修しなくてもよいこの実習を経験したことで将来について見つめなおせた。自分の力不足や勉強不足を痛感した。「楽しかった」「いい思い出になった」だけではなく，自分の甘さを知った。
将来どんな職業に就くにせよ，甘えずに努力しなくてはならないことを知る実習だった。
・大変でしたが，とてもとても充実した内容の濃い１週間でした。本当に履修してよかったと思います。
・机上で学ぶだけではわからないことを，たくさん得ることができた。今後の課題も見えてきた。
・地域と学校のつながりを実感でき，本来の学校のあるべき姿を考えさせられた。
・児童とのかかわり方に，さまざまな側面があることがわかってよかった。
・連続しない学年の複式学級における授業の組み方が難しく，教師･校長先生が協力しなければうまく回らないということもわかった。
・全校児童と接することができ，視線の合わせ方や内気な子との話し方などさまざまな接し方を学んだ。
・特別支援教育について，子どもの力を伸ばすこと，マンツーマンの指導により子どもとの信頼を強くすることに，可能性を感じた。

・本当に充実した５日間だった。初めて授業を行うことで，授業をすることの大変さと楽しさを知ることができた。考え方もいろいろ変わり，「絶対に教師になろう」と思うことができた。教師になって，お世話になった皆さんに恩返しがしたい。
・本当に一日一日が充実していたので，参加してよかった。複式授業も体験し，授業づくりの難しさを知るとともに，子どもに理解してもらえたときの達成感も味わうことができた。
へき地にしかない良さも，実際に行ったから知ることができ，将来の選択肢が広がった。
・これからも機会があれば実践的な活動をしていきたい。今までの勉強がより形として自分のものとして見えてくるようになった。これからさらに変容すると思う。
・自分の眼で学校をみて，先生方･子どもたち･地域の方々と触れ合うことができ，へき地のイメージがすごく変わった。視野が広がり，教員に札幌でなるのか，北海道で就くのかを考えることと来年の主免実習にも役立った。休み時間になると自分のもとへ必ず「あそぼう！」と子どもたちが誘いに来てくれたのがうれしくてたまらなかった。
・子どもたちと多くの時間を共有することで，子どもとの接し方や子供の素直な声を聞くことができ，子どもと向き合うことができた。へき地の学校の雰囲気や教師の仕事や学校が抱える課題を感じることができたことも大きな収穫だった。
・誰にでも開かれており，多くの人がかかわりながら存在する学校があるということを知ることができた。
・本当に楽しかった。これまでにない体験をした。フィールド研究よりも待遇が良いし，いろいろと経験することができた。
・自分はへき地校出身であるが，改めてその良さに気付いた。学校に入ったというよりは地域に入ったという感じで，大きなことをしていると感じた。また，保護者の方から「先生」と呼ばれ，私は責任の大きな仕事に就こうとしているのだと実感し，より努力しようと決意した。
・不安もあったが，実際に実習してみて，子どもたちも地域の方にも，とても温かく受け入れていただいて本当にうれしく思った。
実習前後でへき地教育に対する考え方が変わり，もっとたくさんのことを見て感じ，学んでいきたい。
・教員も，健康管理がまずしっかりしていないと務まらないと感じたので，今回の経験を活かしたい。
・子どもと触れ合う上で，大切なことは何かを何よりも実感できた７日間だった。子どもと一緒にいることで，自分も元気になれ，その元気が子どもたちを教える原動力となるので，今まで以上に子どもたちとの触れ合いを大切にし，力を入れていきたい。
・農業体験などを通して，地域や保護者の方々とも交流がはかれ勉強になった。また人との出会いによって自分が成長でき，とても刺激になると強く感じた。自分の生き方なども考えるきっかけになり，本当に自分にとって勉強になることばかりだと思う。
・へき地校のイメージが変わった。プラスのイメージばかり持っていたが，へき地校であるが故の問題点や，へき地とは限らず，学校の抱える問題点に触れ，今までよりもほんの少し現場の学校がわかった気がする。
・高学年の人間関係の難しさや，いかに子供に自分から積極的にかかわれるかが大切だと学んだ。
・人前で話す機会が何度かあったが，自分の気持ちをうまく言葉にできなかったり，伝えられなかったので，人前で話す力を身につけたいと感じた。
・地域性についても見て学べるシステムを用意してくれていたので，非常に有意義な実習になった。たとえば自然体験センター･ライディングパーク･保護者との交流など。
・今よりもっともっと勉強して，学力以外にも心の面でも成長してから，教師になりたい。
・この実習を受けたことで，フィールド研究などでの子どもの見方･接し方･授業者の観察方法などが180度変わった。自分で授業を作る経験ができたり，子どもとの１週間の生活をしてきたりしているので，自分のこととして物事をとらえて考えられる事柄が多くなった。
・小学校の先生になるということへの意識が変わったと思う。将来を考える大きな材料になりました。
・子どもたちとのかかわりの中で，自分自身の言葉遣いや振る舞いに課題があることに気付き，実習に取り組む中で少しずつ改善することができた。
・札幌校･旭川校の実習生との共同生活も充実していて，へき地実習に参加して本当によかったと思った。
・実習終了時に写真を撮影したら，最高の笑顔だった。実習生もまた，子どもと一緒にいるとこんな顔で笑えるんだと思った。

・実習前の不安は，行ってみると無用だった。
・初日は緊張していたが，子どもたちと会い，話しかけられるととけて行った。3日間で驚くほど打ちとけ，私たちのことを身近な存在として受け止めてくれた。
・学校に入ってすぐ，子どもたちから気にかけてくれて，とても安心した。
・先生方全員が全校児童を理解していた。
・実習期間が短い分，積極的に生徒とかかわれたと思う。子どもたちの持つ力の大きさに感心させられ，また何事にも一生懸命取り組む姿に力をもらった。先生方もとても素敵な方々で，真剣さが伝わってきた。
・初めて子どもたちの前で授業をし，講義を受けているだけではわからない授業づくりの難しさや楽しさを知り，またたった2度の授業なのに子どもたちの変化（挙手しなかった子が2度目の授業では挙手したなど）をみることができうれしかった。自分がこんなに子どものことが好きだと気付くことができ，将来教師になりたいと心から思えた実習だった。
・まだまだ勉強不足だと感じたので，これから努力していきたい。

7．実習中特に指導を受けたことはどのようなことでしたか

・目標を明確にした指導案づくり。
・子どもとたくさん遊び，子供の目線に立って子どもからいろいろ学ぶ。自分は大学生のつもりでも子どもにとっては一教師であるため，けじめをもって行動する。
・子どもの立場に立って授業づくりをする。
・地域とのつながりが強いことは，いいことばかなりではなく，問題もあり，解決しなければならないことなど，授業では教われないことも聞くことができた。
・子どもたちととにかく関わること。よく児童一人一人をみること。
・授業に関しては具体的な改善点を指摘してくれた。
・間接指導のとき，子供にどのような活動をさせるのかをよく考えること（暇をさせない）。
・観察の視点を定めること。間接指導時の子どもの活動に気を配ること。
・複式学級の特性について。
・少人数なので，子ども一人一人の特性を生かすことができる。そのために個々に合った指導を考え，行わなくてはならない。
・授業をする姿勢について。声や在り方など。
・児童数が少ない中での生徒指導について。人数が少ない分，教師が手助けできることが多くなるが，そこで児童が自分で困難を乗り越えられるよう待つことが大切だということ。
・子どもの目線に合わせる。子どもより下の目線を作る，子どもより上の目線を作る，など，状況に合わせて話をする。
・教師が子どもの手本になること。
・子どもとのかかわり方について学んだ。基本的に厳しさがなければ，決して教師という仕事は成立しないということ。
・「子どものことを考える」ということが，常に意識すべきことだという点。
・子どもたちとの触れ合い，交流を大切にしてほしいということを最初に言われた。
・挨拶などをしっかりすること。子どもと積極的にかかわること。
・子どもたちは実習生ではなく一教師として自分を見るので，教師であることを意識してほしいと言われたので，一人一人が先生だという自覚を持ち行動した点。
・教師とは，大学を出て免許を取得したからと言って一人前になるということではないこと。いろいろな失敗や経験を繰り返し，回り道をしていく中で，一人前に近づいていくということが大切だと学んだ点。
・早寝早起きなど基本的な生活習慣が身についていることが大切であること。
・子どもたちに教師のやり方を押し付けないこと。子供の意見を尊重し，すぐに否定しないこと。
・子どもに対する言葉遣い･行動。
・教師と子どもの目線を近付けるため，教壇は撤去することが望ましいという考え方。
・実習校や，それをとりまく環境･地域など。子どもとの接し方や，授業運営の方法など。
・わからないことがあればすぐ質問すること。

・子どもとは，言葉だけではなくいろいろな方法でコミュニケーションをとるものだということ。
・教壇実習における流れの作り方，ニーズにこたえた展開法の再考など。
・観察のポイントを教えていただきました。児童のノートや表情から授業を肯定的にだけではなく観察するすべを教えていただいた。
・実習日誌の書き方。くだけた文章で書いて指摘されました。
・子どもたちと一緒に話したり遊んでください。
・地域について時間をかけて教えていただいた。
・子ども自身に「次はどうすべきか」「なぜそうなったのか」などを考えさせるということ。時間をかけてもいいから，子どもが答えを導きだすことが大切だと教わった。
・教壇実習に対する反省がメインでした。ペンの持ち方，表情や授業のメリハリをつくることなど。
・担任の先生が，クラス一人一人の役割や立場をしっかりと捉えていて，どのように学級経営をしていくかをよく考えていたこと。
・授業の相談にはすごく乗ってもらいました。

8．実習校で印象に残った活動，指導の先生の言葉や行動は何ですか

・指導案づくりと研究授業。
・特に印象に残った活動として農園活動が挙げられる。収穫野菜を使って加工品を作り，地域の人たちを学校に呼んで野菜を販売している。子どもたちも自分たちが一生懸命育てた野菜を買っていただける喜びを感じられて，いいと思う。
・印象に残った活動は，勤労体験のイモ拾いとかぼちゃ採りだった。生徒は30分程かけて地域の農家に行き，一日黙々と作業することはへき地校ならではの素晴らしい活動だった。先生方も一生に活動する姿が印象的だった。
・学芸会と，先生の「集中させるには，無理強いはできないから，こちらが集中させるような授業を与える。これは小学校に限らない」という言葉。
・昼の掃除をしっかりと行っており，特に印象に残った。みんなきちんと積極的に掃除して，きれいな学校作りをしていた。先生の言葉では，「子どもたちは一人一人とても個性的で，その個性を引き出しながら社会性を身につけるのが課題だ」という言葉。
・子どもの集中力を保つため，注意をひきつけるための授業展開や話し方，活動内容，教具の提示などが勉強になった。特別支援教育についてもお話ししました。教師の願い･保護者の願い･そして本人の願い…どれも大切だという言葉。
・指導担当の先生は児童と同じ目線に立てる人で，すごく親しみ深いところが児童の信頼を集めていたと思う。私もこんな先生になりたい，初めて先生になりたいと感じさせてくれた。
・先生方一人一人が，子どもたち一人一人と向き合っていた。
・縦割りでの活動が多いこと。先生が児童にとても近いということ。
・授業で失敗して落ち込んだ時に，先生方が「失敗をすることはある。それをどうしていくのか考えることが大切。失敗して子どもに「ごめん」は通用しない」とおっしゃっていたことが印象に残っている。
・先生と児童がかなりフランクに接していた。特別支援学級の児童に対しても，その子の行動を楽しい個性として捉えていて，変な気を遣わず自然に接していたのが印象的だった。
・おみこしを全員で担いで，地域の一軒一軒を回ったこと。ずっと来るのを待っていてくれた方もいて，この地域から学校が無くならないでほしいと切実に思った。
・「子どものありのままを受け止めること」が信頼関係を作るのに大切だということ。
・掃除の時に，５～６年生がリーダーシップをとって，１～４年生に掃除をさせていたこと。子ども同士で学びあい教えあっている姿。
・登下校の時，玄関で先生方が児童一人一人に声をかけていること。子どもも学校へ来るのを楽しみにしており，学校が1つにまとまっている印象を受けた。
・先生が「子どもから優越感や劣等感をなくして，教え合う･学び合うという姿勢を作らなければならない」という言葉を聞いた。「私はできるからいい」と思う子どもができない子にも教えて，お互いが良くなっていこうとする

姿勢を作ることが大切だと学んだ。
・プール学習。子どもと一緒にプールに入る様子，マンツーマン指導は私にとってとても印象に残る光景でした。先生の「子どもは一度一緒に手をつないで潜ってあげる。その体験があれば水嫌いは治ると考えます。」という言葉。
・少人数だからこそできる授業を見ることができて，本当によかった。
・朝登校したら全校児童が一緒になって遊んでいる姿が印象的で，５～６年生は低学年に自然とやさしくリーダーとして接していた。
・先生方は生活習慣の徹底に力を入れていて，手洗いうがい･歯磨き･朝食を食べるなど子どもたちにしっかり身についているようでした。特に５～６年生がほぼ全員２１時には寝ていて驚きました。
・指導の先生は，いつも子どもたちのことをよく見ていらっしゃる方で，「自分がこの子たちの担任でいいのかといつも悩んでいる」とおっしゃっていたことが印象的だった。
・地域の特徴を生かした学習がたくさんあり，へき地ならではのもので印象深かった。農園体験･野鳥観察･東士狩の水について勉強した。学校と地域の方が密接にかかわっているのも素敵でした。
・地域と学校が一緒になって子どもを育てていく意識がものすごく強いのを感じた。
・どの先生も子どもたち一人一人をよく知り，理解していて，その子にあった接し方をわかっていた。子どもに対する先生方の愛情をかなり感じることができた。
・農業体験や野鳥観察。総合的な学習で行っている野菜作り。言葉は「自分を守れる教師になれ」「地域とのつながりのなかで学校が成り立っている」など。
・子どもたちの問題は，子どもたちで解決させる。そのきっかけやそれができない時の手助けを教師がしてやる。
・そこに子どもがいる限り，学校･先生が必要であるということ。「へき地は不便だから行きたくない」という教師は教師ではないという話を聞いて，なるほどと思った。
・農業体験，秋祭りなど地域の中での体験もさせていただき，地域とのつながりがすごく大切にされていると感じた。先生方も自分のいる学校に誇りを持っていて，「とてもよい学校だし，地域の皆さんも本当に温かくて，私はとても幸せだと思う」とおっしゃっていたことが印象的で素敵だと思った。
・「教師として自信を持ちすぎても，もたなすぎてもいけない。自分なんかが教師でいいのだろうか…。という考え方で子どもたちと向き合える人こそが一番成長でき，教師として向いている」という言葉が印象深い。自信過剰でも過失でもなく，自分に対してつねに不安を持ち続けられることが，自分を成長させる糧になるという意味の言葉である。この言葉の意味を決して忘れないようにしていきたい。
・先生方と話す機会をたくさん取っていただいたことで，仕事の良さだけではなく現状も知ることができた。地域の方々との交流で，保護者の学校に対する思いも直接聞くことができた。
・２年に１度の熱気球体験･他校の教育見学。
・どんな時でも，休み時間は子どもたちと遊ぶことをやめないというところが，子どもたちとの関係を築く上で重要なのだということ。
・失敗を恐れずにチャレンジ。前進あるのみという言葉。
・教員には，「なるのではなく，採用され経験を積んで，なっていくものだ」という言葉。
・学芸会。実習期間にちょうど全学年が練習していた。１週間の中で変わっていく子供を見て，成長に立ち会える教師の仕事に強い魅力を感じた。
・初めての実習でいつも自信がなさそうな私に，指導教諭の先生が「一生懸命やれば必ず子どもは返してくれる」という言葉をかけ続けてくれました。その先生は「正直言って仕事をしていてつらいことはたくさんある。でも１日１度は教師を続けていてよかったと子どもが思わせてくれる」ともおっしゃった。その言葉を何度も実感した。子どもに救われることを学んだ。
・指導担当の先生の，子どもとの距離の取り方。
・子どもたちの運動能力の高さに驚いた。
・地域の人が講師としてやってきて「夢を周りに話すことで，協力してくれる人に出会う」とおっしゃったこと。
・高校進学後を見越して，活動内容はできるだけ大規模校と同じことをやらせていたこと。先生たちが勤務校に誇りを持っていたこと。
・児童が自分で考えるように促したり，高学年にリーダーとしての自覚を持たせようと取り計らっていたこと。
・畑の収穫作業。

※学生の感想をほぼ原文のまま抜粋した。